

青森で生きる未来人財育成事業 ボランティアチーム養成講座【第3回】

7月9日(日)14:00~15:00 県総合社会教育センターより配信 受講者 45名

1 趣旨

青少年の自己肯定感や主体性を高めることを目的として、高校生を地域で行われるボランティア活動に派遣し、異年齢交流などの多様な体験活動に参加させる。

2 内容 【講義】「国際ボランティア」

JICA青森デスク 国際協力推進員 阿部 翔太 氏



3 講義要旨

- JICA海外協力隊は、日本政府による政府開発援助として、独立行政法人 国際協力機構（JICA）が実施しています。海外協力隊には、9分野、190種以上の職種があります。開発途上国からの要請（ニーズ）に基づき、それに見合った技術・知識・経験をもち、「開発途上国の人々のために生かしたい」と望む方を募集、選考、訓練を経て派遣しています。
- ニカラグアで学んだことは、様々な価値観にふれ、人と人との価値観を受け入れることが大切だということです。また、自分はどのような人なのか、どういう考えをもっている人なのかを相手に伝えることができないと相手は心を開いてくれないということです。
- ニカラグアでは、若年妊娠、男女格差、教育を受けられないなどの貧困のスパイラルが続いている現状があります。そのため、性別に関わらず自己実現できる環境をつくるために、野球を通じてリーダーを育て、生きがい、生き方の選択肢を広げるという活動を行ってきました。
- ニカラグアの代表選手を青森へ派遣し、交流することで開発途上国の実情を知ってほしい、様々な社会課題に向き合っていってほしいと思っています。



4 受講者の感想から

- スポーツを通して人と関わり、経済の発展や格差の問題解決につながる活動をしていて凄いなと思いました。自分の考え方だけが正しいと思わずに、いろいろな人の考えや感じ方を聞いて、自分の生き方につなげていきたいと思いました。
- 自分に出来ることを全力でやることの勇氣と大切さを学ぶことができました。また、ボランティア活動では、自分の得意な分野を生かすことができると知り、より一層ボランティア活動に尽力したいと思いました。
- 貧困や戦争などをどうやったらなくせるかということに興味がありました。阿部翔太さんの話を聞いて、自分の趣味や強みを生かして開発途上国の子どもたちを助けることができることがわかりました。また、現地に行くことで様々な価値観を養うことができ、自分を伝える力や意見を受け入れる力が身につくことが魅力だと思いました。さらに、言葉が通じなくても心で世界中の人々と通じ合えることがわかり、うれしかったです。
- 開発途上国女子が若年妊娠、結婚を強要されているのは問題だと思ったし、もっと色々な人に知ってもらいたいと思いました。「自分とは関係ない」ではなく、「自分には何が出来るのか」を考えていきたいと思いました。

第3回の講座では、「国際ボランティア」をテーマに、開発途上国の現状を詳細に教えていただきました。

講義では、JICAの取り組み、ニカラグアでの経験や活動実践、開発途上国が抱える問題など、国際ボランティア活動をする上で大切とする考え方について学ぶことができた有意義な講座となりました。

若年妊娠による学校中退

	日本	ニカラグア
若年出産率（18歳未満）	0.4%	28%
児童結婚率（18歳未満）	0%	35%
中等教育終了率	100%	73%

